

# フリースタイルな 僧侶たちの フリーマガジン

2012/6・7  
**Vol.17**  
Japan  
since 2009.8



**Special**  
奈良・光明寺 三浦明利住職  
「僧侶として歌う道」

フリースタイルな行者の「精進生活」  
イベントインフォ"仏教体感" ETC

<http://freemonk.net>

# 「僧侶として歌う道」

## 奈良・光明寺 三浦明利住職

文・中平了悟（17号輪番編集長）

奈良県吉野にある光明寺の住職・三浦明利さん（29才）。女性の住職も決してめずらしいことではない。ただ、彼女はメジャーデビューを果たした、実力ある「歌手」でもあるのだ。仏教の心を伝えたいと「僧侶として歌う道」を歩む三浦明利住職。その「仏教を歌う」想いとほ…。



### 三浦明利（みうらあかり）

龍王山光明寺住職 / シンガーソングライター / 作家  
1983年、奈良県吉野の光明寺の一人娘として生まれる。25才で住職に就任。住職の仕事とともに、音楽活動を行い、さまざまなメディアで仏教の心を伝えるべく活動している。





——大きな転機は、25才の時だった。

大学院で仏教の勉強をしながら、ガールズバンドのギター・ボーカルとして活躍。すばらしいメンバーに囲まれ、数々の受賞を重ねた。全国的なコンテストでもグランプリを獲得し、インディーズながらCDもリリース。バンドとしてピークを迎えようかという時だった。住職であった父の退任により、突如おとずれたお寺の窮地。大学院での勉強もバンド活動も断念し、自ら「住職」となることを決意した。身の上で起こった急激な変化に「お寺がなければ…」なんて思いはなかったのだろうか。

**三浦**.. 幼い頃から、生まれ育ったお寺を継いで住職となることは夢の一つでもあったし、住職となることをイヤだと思ったこともありませんでした。でも当時25才、こんなにも早くこういう事態になるとは思っていませんでした。なにより、一番気持ちがついていけなかったのは、バンドのメンバーの人生も変えてしまうということ。

「こういうことがなければ続けられていたのに、メンバーにも他の方たちにも申し訳ない」と思っていました。決意を伝えて、そう謝ったとき、メンバーが言うてくれたんです。「なにを言っているんだ、明利がここまで音楽を続けてこられたのは、ご両親のおかげじゃないか。だから、いままで一緒にやってこられて、



すごく感謝している」と。

そのときメンバーからももらった言葉というのは、自分のなかではすごく大きなものです。「このせいでできない!」ではなくて、「このおかげで、これまでできていた」と。

お寺のことがあるから他のことができない、というのは実は本末転倒で、お寺に生まれなかったら、私は仏法には出遇っていなかったし、そもそもお寺に生まれていなかったら、いま一番したいことにも出あえていなかったのではないかと思います。

——また、このとき自分の立場を理解して、送り出してくれたメンバーからももらった言葉は、苦しいときの支えになった。なにより、「このせいでできない」ではなく、「このおかげでできていた」という視点。それは、三浦明利住職の歌の世界にも、ものの方にもつながっていく。

♪♪♪

——京都から奈良に帰り、住職として「一生お寺を守っていくこと」が一つの夢になった。ギターも乾燥剤をつけてケースにしまいこんだ。

そんな中、テレビ出演の話が来た。すでに住職でもあり「どう思われるかわからないから、やめておこう」とそう考えて足踏みしていた。しかし、出演すべきと勧められたのは、ご門徒（お檀家）だった。「何事も経験で





す」と言い、「いつでも、まじめに仏法のお話をされたら、どこで仏法に出られる方がいらっしやるかわからな  
いじゃないですか」と。僧侶として、仏教を  
伝えるために引きうけたらどうか、というの  
だ。ご門徒のことばに背中を押され、テレビ  
に出演すると、さまざまなメディアからも注  
目されるようになった。今では、ご門徒の言  
葉の通り、自分がメディアに出て仏教を語る  
事で、一人でも多くの方が仏教の言葉に触  
れるきっかけになればと思っているという。

**三浦**： 最近、一般の雑誌に私の法話が載っ  
たところ、「わたしの人生のとらえ方がまち  
がっていました」という感想の書かれたお手  
紙を何通かいただきました。それは、私の  
言葉がすばらしいというのではなく、仏教の  
すばらしい言葉に触れてくださったからだ  
と思うんです。普段は仏教に触れる縁がなかつ  
たけれど、たまたま開いた雑誌に私の記事が  
あった。それで仏教の言葉に触れてくださ  
った。仏縁はどんなところに転がっているか  
わからないと改めて思いました。雑誌も、フリー  
ペーパーも、仏教に出遇っていただけの方が  
いたらいいなと願って、取材などを受けるよ  
うにしています。

——メディアに出て、僧侶として、まじめに  
仏教のことばを伝える。一人でも多くの方に、  
仏教に出遇って欲しい。住職の活動には、そ  
んな想いが込められている。



——「一人でも多くの方に仏教を伝えたい」その想  
いは、再び始めた音楽活動にも込められている。

**三浦**： CDデビューしたことも、音楽活動で  
いうと「再開」なんです。私の中では「もっ  
とかっこいいものを見せたい」と思っていたバン  
ドの頃とはちがって、住職となって、「僧侶として  
歌っていく道」をいただいたと思っています。

僧侶である自分が歌うことは、音楽と仏教が  
ひろまってきた歴史につながっていきました。  
たとえば親鸞聖人（※浄土真宗の開祖 一一  
七三～一二六三年）は、民衆にも浸透していた  
「今様」という当時の流行歌の形式を取り入れ  
て、たくさん「和讃」を作られました。当時  
の最先端の音楽を取り入れて、仏教で大切にさ  
れているものを歌われた親鸞聖人を思えば、今  
のポップスや音楽で仏教の心を歌っていきたいと  
いうことは、すごく自然な事じゃないかと思  
います。

お寺は元々文化の発信基地で、仏教は文化の  
最先端を取り入れ、作っていくものだったわけ  
です。それが仏教の伝統ではないかと思いま  
す。普遍・真理というものは時代によって変わら  
ないけれど、それを伝える表現などは、新しいも  
のも取り入れられてきたのではないでしょう  
か。



——住職は、昨年7月に『ありがとう』私  
を包むすべてに〜』という曲をリリースした。こ  
の曲は、自分自身のあり方を振り返らせてく  
るものでもあるという。

**三浦**： 『ありがとう』は、「『ありがとう』が大事だ





よ」という歌ではないんです。私は忙しすぎる状態になると、まさに心を亡くして、まわりの支えとか、応援が見えなくなったりするんですね。その時にはもちろん、「ありがとう」なんて言葉は出てきていなかった。そういう、恥ずかしい勘違いをしている状態がありました。それで、再び歌わせていただく縁をいただいた時、この歌を歌わないと前に進めない気がしたんです。

私の場合、「自分の勘違いに気づいた!」「もう大丈夫!」というわけではなくて、いろんな支えの中にあるのに、それが見えなくなってしまう時がある。そんな時に、自分の歌なんだけれど、ちょっと自分を引き戻してくれる。この歌は歌えば歌うほどに、わたしにとって自分のあり方が問われる曲だったりするんです。

——この歌には、『ありがとう』を聴くと、「ありがとう」を伝えたい思いが湧いてくるのと同時に、「ありがとう」といわれているような気がします」という感想が寄せられた。住職自身もそんな思いがする時があるという。「単純な歌なんですけどね」といいながら、とても大切にしている歌だ。  
『ありがとう』も含めて、住職の歌詞に、いわゆる「仏教用語」はほとんど使われない。

**三浦**… 仏教的な思想は、日本人が文化の一部として取り入れて、それと気づかずに根底に持っているということがあります。仏教用語を使わないと



『わたし、住職になりました』  
(アスベクト、1400円)  
三浦明利さんの自伝的エッセイ。住職としての日常や、音楽活動への思いが丁寧な言葉で語られる。この本を讀んだリスナー全員が、「イメージが変わった!」と唖った一冊!



『被災地からのありがとう』  
作詞 高橋久子 作曲 三浦明利 (2012年3月11日)  
被災地から届けられた、支援に対する感謝の詩を歌った曲。このCDの収益の一部は、義援金として被災地に寄付される。



『ありがとう～私を包むすべてに～』  
作詞・作曲 三浦明利 (2011年7月6日)  
三浦明利さんのメジャーデビューCD。「ありがとう」という感謝の気持ちを出すとともに、「ありがとう」と言われているような思いがするという感想も。

ころでも、仏教で大切にしている心を盛り込んで表すことができると思います。

——寄せられた感想は、そんな住職の思いが伝わっていることを物語っているように思われる。



——今年3月11日、東日本大震災の支援として、『被災地からのありがとう』というCDをリリースした。宮城県名取市に住む高橋さんという方から寄せられた、「お世話になった友人・ボランティアの皆さんに感謝の気持ちを伝えたい」と作られた詩に曲をつけて欲しい、という思いに応えたものだ。

**三浦**… このCDは、「被災地を励まそう」「元気づけよう」という曲ではなくて、自ら発信しようとしていたことのお手伝いがあったら、という思いで携わらせてもらいました。

曲を書き上げて、名取市の高橋さんのご自宅をうかがうと、何も無い。こんな砂漠のような何もない場所から、「ありがとう」ということばが出てくださるのは、砂漠から花が咲くようなことだと、大きな衝撃を受けました。余裕があった「ありがとう」が出てきたということではないと思うんです。

——今年3月には、奥松島の野蒜(のびろ)という地を訪れた。そこは、まだがれきがそのまま残っているような状態で、駅は窓が割れたまま、線路は曲がったまま。







海岸沿いは全壊だから、人もいない。とても復興といえるような状況ではなかった。

**三浦**.. その場所で思ったのは、この「被災地からのありがとう」というのは、こんな厳しい状況からの「ありがとう」だったのだということでした。高橋さんはまだ仮設住宅にお住まいですし、野蒜にしても「余裕ができました。ありがとう」なんていえる状況ではない。福島の問題に関しては特にそうで、もう一年経ちましたが、とても「ありがとう」という状況ではない方々がたくさんいらっしゃいます。この厳しい状況のなかからの「ありがとう」を、私は「この活動は継続しなければいけないんだ」という思いで受け取りました。

だから、この被災地からの「ありがとう」を受け取ってください方には、この被災地の方の素朴な「ありがとう」の気持ちを受け取って欲しいということと、一方で、現地の厳しい状況の中の「ありがとう」です。今後も支援が継続して必要であることを知ってほしい、と思っています。

♪ ♪ ♪

——最後に、今後の活動について尋ねると、次のような言葉が返ってきた。

**三浦**.. まずは素朴にお寺を守り続けていつて、そこに音楽があつて、歌い続けていければいいなと思っています。音楽が好きなので。

もし、もう二つ付け加えるならば、「どのように社会と関わっていくか」ということを考えていきたいと思っています。デビューしてから、社会とどのように関わっていくかを課題として考えて活動してきました。『被災地からのありがとう』は、それが一つの形になったものではないかと思っています。役割としては、『フリスト』のような活動と似ているかも知れないですね。発信する何かのお手伝いができたらと願っています。

——「住職」としてどうあるべきか、「僧侶」としてどう歌うべきかを、常に問い続けるまなざしで言葉が発せられているように思われた。

取材・文責

17号輪番編集長

中平了悟（なかひらりょうご）

浄土真宗本願寺派 尼崎市西正寺衆徒

「フリースタイルな僧侶たち」メンバー

本願寺総合研究所・研究員





## フリースタイルな行者の

### 「精進生活」



#### お遍路の思い出

四国には、弘法大師の八十八ヶ所の霊場を巡礼する遍路道があります。私はこの道を一人歩き、その道中の所々で托鉢を行いました。『同行二人』といって、遍路中はお大師さんが遍路に同行して下さっていますので、托鉢は、そのお大師さんの功德が、衆生に及ぶように、家の戸口で読経して家族の幸せを祈るといふ法施の修行になります。そのおかげで、私は四国の方々とふれ合う機会が多く持てたのかもしれない。初めは羞恥心がついてまわりましたが、だんだん慣れていくうちに、人とのふれ合いが楽しくなってきたり、自分を感心しましたし、何もただけなくとも、笑顔と感謝の言葉のお布施に感謝したものです。

ある遍路の日の夕暮れ。この日は、ほとんどの家で相手にしていただかず、少し気持ち下がりがながらも、その家の戸口に立たせていただきました。「遍路の修行をさせていたでいる僧侶です。戸口にて心経を唱えさせていたでいるよろしいですか？」家の方のご返事は「どうぞ」ということでしたが何の気にもされず、庭で遊んでいた小学1、2年生くらいの女の子だけが、黙って私の経を聞いていてくれました。唱え終わった私はその女の子にお辞儀をし、また先を急ぎました。

しばらく行くと、後ろから声がかかります。振り返ると、先ほどの女の子が、自転車の後を追いかけて来ていました。そして「ありがとうございます。これを食べてください」と、小さいチョコがたくさん入ったビニール袋を私にくれました。私はお礼を言い、女の子に納め札を手渡しました。女の子は、照れた顔で笑って札を受け取ると、振り向いて全速力で帰って行きました。

遍路中に私はたくさんの方々にお布施や接待をしていただきました。しかしそれは私ではなく、私に同行して下さっているお大師さんにいただいているのだと思っています。そして、それはその方々の心をいただいているのだと。私は四国で教えていただいた、このお布施の心を大切にしたいと思っています。

小野剛賢 昭和51年3月17日生 高野山真言宗 薬師院 副住職  
<http://www.eonet.ne.jp/~yakushi/> 高野山真言宗・薬師院HP  
<https://ajikan.blog.eonet.jp/default/> ブログ

## 坐禅でリフレッシュ「朝活禅」

出勤前に坐禅でリフレッシュ。曹洞宗主催の「朝活禅」を体験してきました。朝七時。浜松町、東京グランドホテルの坐禅道場に、三十代から五十代の男女、約三十名が集まりました。

まず運営者の一人、君島さんから坐禅道場での作法などのレクチャーがあり、いざ道場へ。足の組み方や、坐禅中に頭に浮かぶ妄想への対処など、丁寧な説明ののち、いよいよ坐禅へ突入。十分間はあっという間でした。

続いて「行茶」という修行を体験。これは周回とペースを合わせお茶を飲むのですが、猫舌な私はひたすらあたふた…。

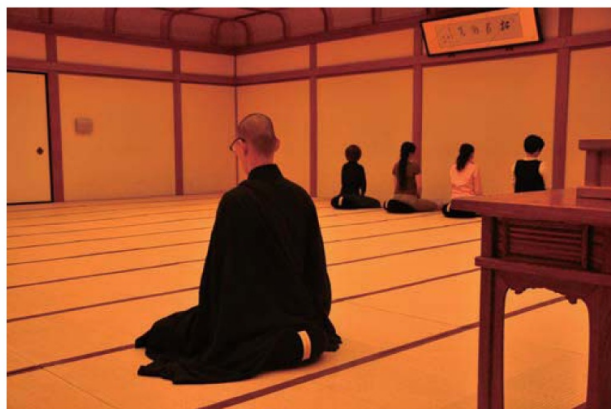
そんなこんなの「朝活禅」体験。私の感想は「全身全霊でぼーっとできるのが坐禅だ」。

僧侶の方々のお話によると、誰もが作法にのっとる坐禅では、誰もが平等。誰からも評価されず、自分に立ち返れるのが坐禅とのこと。納得。だからあんなに心地よかったのだと胸に落ちました。

仕事はもちろん、日常でもネットなどで個人が評価にさらされる昨今。自分らしく人生を歩むためにも、この秋、第四弾を開催予定だという「朝活禅」、オススメです。(いいむらえりこ)

曹洞宗総合研究センター「朝活禅」プロジェクト

<http://www.sotozen-net.or.jp/asakatsuzen>



6/23  
7/28

## 心の糧セミナー ～歎異抄に学ぶ～

浄土真宗の祖師 親鸞聖人の言葉を伝える『歎異抄』には、「いづれの行もおよびがたき身なれば、とても地獄は一定すみかぞかし」と厳しく自らの生き方を省み、「善人なおもて往生をとぐ、いわんや悪人をや」と阿弥陀仏の救いをひたすら信じた姿が遺されています。いま、私たちも、『歎異抄』を味わうことで、心を見つめ生きる糧にしてみませんか。

第6回 6月23日(土)13時30分～16時

講師：阿満利麿先生(明治学院大学名誉教授)  
平野俊興先生(千葉県中原寺)

第7回 7月28日(土)13時30分～16時

講師：池田行信先生(栃木県慈願寺)  
ひろさちや先生(仏教思想家)

会場：川鍋ビル 8階(JR 大宮駅東口より徒歩6分)  
〒330-0845 さいたま市大宮区仲町 2-60

参加費：100円

連絡先：誓願寺  
〒331-0062 さいたま市西区土屋 1707-3  
Tel: 048-622-4732

主催：誓願寺

※ 事前のお申し込みは必要ありません。

6/2  
他

## 武蔵野大学 2012年度公開講座

武蔵野大学仏教文化研究所では、仏教思想を広く社会に発信するため、一般市民を対象にした「公開講座」を開催しています。公開講座では、特定の宗派にとらわれることなく、現代社会が抱えるさまざまな問題を取り上げ、平和的平等的精神を有する仏教という視点で取り組んでいます。

※全講座、聴講無料・申込不要です。

連続公開講座

「仏教の未来—新しい挑戦に向かって」

第2回 6月2日(土) 宮崎哲弥(評論家)

「インドの仏教、日本の仏教、そして…」

第3回 7月7日(土) 磯村健太郎(新聞記者)

「『いのち』に寄り添う現場から」

平成24年度 年一回公開講座

ひろさちや先生をお迎えして

8月4日(土) 13時30分～15時

講題「お浄土とは何か」

会場：武蔵野大学 5号館 グリーンホール  
〒202-8585 東京都西東京市新町 1-1-20

お問い合わせ：

武蔵野大学 仏教文化研究所

(月～金) 9時～17時

Tel：042-468-3145

7/5  
木曜日

## まるぼうず寄席～まるこが坊主になりまして～

フリスタメンバーであり、仏教を愛する落語家・露の団姫(つゆのまるこ)。かねてより「いつか出家して尼僧になりたい」と語っていた彼女でしたが、その夢がついに実現。4月25日からおよそ2ヶ月にわたり、比叡山での修行生活に入っています。そして今年7月、お坊さん落語家としてのデビュー公演「まるぼうず寄席」を実施!

この日、あの場面で、ツラ、とっちゃんいます!

●日 時：平成24年7月5日(木) 19時

桂福丸 「開口一番」

露の団姫 「スペシャル松山鏡」(オチに注目!!)

笑福亭竹林 「お楽しみ」

—中入り—

トーク 「まるぼうずへの道」 露の団姫 聞き手・竹林

豊来家大治朗 「太神楽曲芸」

露の団姫 「一隅を照らす落語(仏教落語)」作・露の団姫

●参加費：前売 2,000円 当日 2,500円

お申し込み・お問い合わせはこちら

天満天神繁昌亭

〒530-0041 大阪市北区天神橋 2-1-34

TEL：06-6352-4874 (おかけ間違いにご注意下さい)

※受付時間は午前11時～午後7時30分です。

※チケットびあホームページからもお申し込みできます。





6/11  
他

## 経典をナナメから読む会 ～仏教は失恋に効くのか!?～

「失恋したときにお釈迦様ならどんな言葉をかけてくれたらう?」というスタッフ 辻村優英(当時失恋中)の素朴な問いかけから始まったのが、「経典をナナメから読む会」。

この勉強会では人間の永遠のテーマである「失恋」をはじめ、参加者それぞれの日々の悩みに向き合いつつ、経典の言葉をひもといていきます。もちろん、経典の成立史や正しい解釈にもできるかぎり迫ります。

辻村と池口がゆるーく経典について語っていきますので、参加者のみなさまからも臆することなく感じるままにツッコミを期待します。きっと、新しい気づきがあるはずですよ。

※各回のテキストはこちらでも準備いたしますが、予習されたい方はお買い求めください。

第6回 平成24年6月11日(月)・16日(土) 19時～21時  
テキスト：『ブッダ最後の旅』(岩波文庫)

本書は、お釈迦様ご入滅の場面を描いた経典。弟子たちにとって敬愛するお釈迦様の「死」は忘れられない事件。悲嘆にくれる弟子たちにどのように遺言したのか。お釈迦様の生涯の最後の場面を読み解くとともに、葬送儀礼の原点を学びます。

第7回 平成24年7月11日(水)・14日(土) 19時～21時  
テキスト：『仏典講座 4 律蔵』(大蔵出版)

「律」とは、仏教教団に属する人たちが守らなければならない行動規範を説くものです。仏教がストイックな「律」に基づく生活を推奨するのは、それによって欲望をコントロールしていくため。「律」を読み解くことで、私たちの生き方を省みるひとときになればと願います。

会費：各 1,500 円(フリスタ会員は各 1,300 円)  
※うち 1,000 円は震災復興支援のため寄付いたします。

定員：各 10 名 ※要予約・先着順

会場：フリースタイルな僧侶たち オフィス  
〒600-8119 京都市下京区河原町通五条下ル  
本塩竈町 583-5 kawaramachi place 1002 号室  
Tel: 075-555-5730  
京阪電鉄「清水五条」駅より徒歩 6 分

予約連絡先：info@freemonk.net

※フリースタイルな僧侶たちホームページよりお申し込みください。

主催：フリースタイルな僧侶たち

7/21  
10/21

## 仏教国際交流イベント 「サンギーティの会」

「サンギーティの会」では多くの国籍の僧侶が集い、祈りを捧げる国際法会を開催し、また、日本の研究者又は僧侶の方々から問題提起をいただき、ひとつのテーマを掘り下げ、国境を越えた「智慧の交流」を行います。もちろん、一般の方もご参加いただけます。

●日時：7月21日(土)午後6時～9時(食事申し込み制)  
10月21日(日)午後1時～5時(食事申し込み制)

※食事は、事前申し込みにより、精進のお弁当をご注文できます。

●会場：BONZE クラブ堀北庵  
(京都市営地下鉄「北大路」駅徒歩 8 分)  
<http://bonzeclub.net/profile.html>

●参加費：外国の僧侶はすべて無料。  
日本の方は、僧侶も含め 1 名千円(食事代別)  
※ご参加は 2 日前までのお申し込みをお願いいたします。定員 40 名。

●主催：サンギーティの会  
(平城遷都 1300 年奉祝イベント「ほとけの道のり」  
実行委員会より改称)

申し込み・お問い合わせ：080(5641)1076 加藤

《7月21日の予定》時間配分は変更になる場合があります

PM6:00～6:45 開催挨拶、食事

PM6:45～7:00 ゲストからのスピーチ

PM7:00～7:30 祈りの時間(国際法会)

参加者全員で、世界平和と仏法興隆を祈ります。多言語による法会です。

PM7:30～7:45 休憩

PM7:45～8:30 まで 問題提起・意見交換会

6/23  
土曜日

## 京都市・中京区 光明院公開法話会 「家で看取るということ」

人生の終末を病院ではなく我が家で過ごしたいと思っ  
ている方も多いと思います。現  
代の医療体制では、在宅でも  
病院と同じレベルの医療を受  
けることができます。

100名ほどの在宅医療の  
経験から「我が家での看取り」についてお話しします。



日 時：平成24年6月23日(土)14時から  
※本堂で勤行の後、書院で法話会  
法 話：光明院住職・田中医院院長 僧医  
田中善紹  
会 場：光明院  
(〒604-8336 京都市中京区三条大宮町 243)  
参 加 費：1,000 円

■お問い合わせ■

※事前申し込みは不要です。

メール zensyou@mbox.kyoto-inet.or.jp

<http://web.kyoto-inet.or.jp/people/tanakazk/>



取材風景。三浦住職と中平

## 編集後記

桜も見頃の四月中旬。奈良県大淀町の光明寺に特集記事のインタビュ取材のため、三浦明利住職を訪ねました。住職とお母様が、われわれ取材チームを丁寧にお迎え下さり、写真撮影、取材にころよく応じて下さいました。この場を借りてお礼申し上げます。

取材の半ば、お寺の玄関のチャイムが「ピンポン」と鳴りました。来客です。どうもご門徒（お檀家）さんのようでした。取材の席を立つて対応された三浦住職とその方が、玄関先で楽しそうに話される笑い声が響いていました。多分それが光明寺の日常で、三浦住職が大切にされている時間と場所なのでしょう。「お寺ついでいなあ」と改めて思いました。

実は企画当初、三浦住職には「歌手」の顔を期待していたところがありました。しかし、著書を読み、お話を伺うと、そのイメージは変わりました。お寺の事を第一に考え、近隣の門徒さんたちと丁寧にお付き合い合われる一人の立派な「住職」でした。期待はいい意味で裏切られ、一人の「フリースタイルな僧侶」がクロゾブアップできたのではないかと思います。結果オライナ感じがないではないですが、本誌のカラーが出せたのではないかなあと、二人、悦に入っています。

(17号輪番編集長 中平了悟)

## 読者のみなさまからの お便りを紹介!

フリストではみなさまのお便りを募集、紹介しています。今回はメールで届いたお便りからのご紹介です。

お坊さんとフリーマガジンという組み合わせの珍しさに惹かれて手に取ったのですが、いい意味で期待はずれでした。若いお坊さんたちの真剣な気持ちが伝わってきて、なんだかうれしくなり、私もがんばろうという気持ちになりました。応援してます!次号が楽しみ☆

(T・Hさん・20代女性・京都府)

誌面に関するご意見、ご感想もお待ちしております。お気軽にお便りください。応募は郵送、FAX、電子メール、また Web サイトでも受け付けます。ご応募お待ちしております。

あて先：フリースタイルな僧侶たち 編集部  
 ☎600-8119 京都市下京区河原町通  
 五条下ル本塩竈町 583-5  
 @kawaramachi place 1002 号室  
 FAX : 075-777-9579  
 Email : info@freemonk.net  
 Web : http://freemonk.net

## サポーターズ・クラブ会員募集中!!

**私たちの活動に共感し、  
応援していただける方を大募集中!!**

対象者 フリストを応援して下さる方  
 協賛年会費 5千円(個人) / 3万円(法人)  
 ※サポーターズ・クラブの皆様には、年間6回発行予定の本誌をお届けします。また、フリスト主催の各種イベントにおいて、優待いたします。  
 ※法人会員の方々は、誌面にお名前を掲載させていただきます。

会費振込先：三井住友銀行 園田支店(422) 普通 5092943  
 フリースタイルな僧侶たち 代表 池口 龍法  
 ※お振込みいただく際には、あらかじめご連絡ください。

## 広告募集中!!

本誌「フリースタイルな僧侶たちのフリーマガジン」に広告を出しませんか?

本誌は関西の寺院や仏具店をはじめ、カフェやスペイン料理店まで、様々な場所に設置しています。設置箇所は現在も拡大中(ホームページで確認できます)!

興味をもたれた方は一度、お問い合わせください。

《媒体情報》  
 仕様：A4サイズ・12頁・カラー  
 発行部数：10,000部 (2012年6月現在)

**お申し込み、お問い合わせは、フリースタイルな僧侶たち編集部(電話番号などは下記)まで。  
 ホームページからお申し込みいただけます。**



## 協賛のご報告

本誌発行にあたり、ご支援いただいた皆様、厚く御礼を申し上げます。以下に、法人サポーターの方々のお名前のみ掲載させていただきます。

安心院 (京都府八幡市・浄土宗)  
 安楽寺 (京都府南丹市・浄土宗)  
 石尾山弘法寺 (大阪府和泉市・真言宗)  
 延命寺 (大阪府堺市・浄土宗)  
 円融寺 (東京都目黒区・天台宗)  
 教伝寺 (京都府船井郡・浄土宗)  
 窪之坊 (山梨県南巨摩郡)  
 九品寺 (京都府京都市南区・浄土宗)  
 光徳寺 (東京都台東区・浄土宗)  
 光明院 (福岡県みやま市・浄土真宗本願寺派)  
 光明院・田中医院 (京都府京都市中京区・浄土宗西山禅林寺派)  
 光明寺 (滋賀県草津市・真宗興正派)  
 西明寺 (兵庫県尼崎市・浄土宗)  
 浄栄寺 (滋賀県東近江市・浄土宗)  
 浄元寺 (兵庫県尼崎市・浄土真宗本願寺派)  
 性高院 (愛知県名古屋市中区・浄土宗)  
 正善寺 (兵庫県伊丹市・浄土宗)  
 正法寺 (京都府京都市東山区・時宗)  
 勝楽寺 (東京都町田市・浄土宗)  
 信覚寺 (福岡県朝倉郡・浄土真宗本願寺派)  
 心光院 (東京都港区・浄土宗)  
 瑞聖寺 (東京都港区)  
 崇福寺 (滋賀県甲賀市・浄土宗)  
 大圓寺 (東京都目黒区・天台宗)  
 臺鏡寺 (大阪府枚方市・浄土宗)  
 檀王法林寺 (京都府京都市左京区・浄土宗)  
 潮音寺 (東京都大島町・浄土宗)  
 長壽院 (東京都台東区・浄土宗)  
 梅窓院 (東京都港区・浄土宗)  
 宝泉寺 (愛知県津島市・浄土宗西山禅林寺派)  
 法善寺 (大阪府大阪市・浄土宗)  
 法然院 (京都府京都市左京区)  
 法華寺 (京都府亀岡市・日蓮宗)  
 無量光寺 (鳥取県鳥取市・浄土宗)  
 薬師院 (大阪府岸和田市・真言宗)  
 遠藤新兵衛商店 (京都府京都市下京区)  
 株式会社京美仏像 (京都府京都市北区)  
 株式会社 薫寿堂 (兵庫県神戸市)  
 寺院コム (京都府京都市左京区)  
 浜屋 株式会社 (兵庫県姫路市)

※ 五十音順に表示しています。  
 ※ 協賛は随時受け付けています。

## 念ずれば花ひらく！ はッピーだるま

昔から「縁起もの」として名高い、高崎のだるまですが、最大の特徴と魅力は、だるまの「眼」を書き入れて「真心」を入れることです。プレゼントした人と貰い受けた人の、願いと真心が宿ります。貰ってありがたく、また、心癒される愛嬌たっぷりのデザインで、ギフトやウェディング等の様々な市場での活躍が期待されます。



Mサイズ……定価3,800円(税抜)  
 和紙ペーパーで、一枚一枚、手作業で加工。  
 サイズ : W12×H14cm前後  
 カラー : レッド・ピンク(柄) 全2色  
 パッケージ: PPアクリルボックス(説明書付)

### はッピーだるまの特徴

- \* 金色の「鶴」の眉と、「亀」の髭 ⇒ 長寿、黄金の人生
- \* にらみ顔 ⇒ 厄難を寄せ付けない八方を睨んだ表情
- \* 丸い姿 ⇒ 家内円満と裕福を表す

「七転び八起き」の精神、そして「念ずれば花ひらく」の信念。新築や移転等で、平穏かつ順風満帆な門出を願う人、また、病気と闘う人の傍ら、日夜勉強に励む受験生の卓上で…不屈の精神で頑張る人や企業のために…

「はッピーだるま」が、みんなを、あなたを、応援します!!

### お取り扱いいただけるお寺を募集中!



自己の目標や、メッセージが書けます。

株式会社ミーツ  
 〒370-0875  
 群馬県高崎市藤塚町 430-1  
 TEL : 027-386-3344  
 FAX : 027-386-3345  
 Email : info@splendore.jp  
 HP : <http://happydaruma.com>

## フリースタイルな僧侶たちの フリーマガジンは

日本では、「お坊さん=お葬式」というイメージが定着しています。しかし、仏教にいま求められているのは、お葬式だけのお寺とのつきあいではなく、先行きが見えず生きにくい社会を、心安らかに生きられる社会に変えて欲しいということではないでしょうか。

私たちは、その期待に応えるために、既存概念に固執することなく、日本仏教のあり方をフリースタイルに見つめ直していきます。

仏教を心のよりどころにして、いまを生きるということと一緒に考えてみませんか？

私たちは、本誌フリーマガジンを発行(年間6回・偶数月1日発行)して街中のカフェやバーなどで配布するほか、仏教を実際に体感できるイベントや法会も随時開催しています。詳細はホームページよりご確認ください。

また、一緒にこれからの仏教のあり方を考える僧侶の方々や、デザイナーやコピーライターなど誌面作りに一緒に参加いただけるボランティアスタッフも随時募集しています。

お問い合わせ先  
 tel: 075-555-5730 fax: 075-777-9579  
[info@freemonk.net](mailto:info@freemonk.net)





浜屋は  
関西最大級の  
お仏壇・お仏具・  
墓石の専門店です。



浜屋は個人情報を保護する企業を示す  
プライバシーマーク取得企業  
です。

やすらぎの世界を創る



**浜屋**

お仏事・お仏壇・お仏具・お墓・ギフトのご相談は  
通話料無料 浜屋姫路本社フリーダイヤル  
イロイロクォー  
**0120-1616-94**  
●受付時間/午前10時から午後7時まで

製造直売・関西最大級、30店舗の安心ネットワーク。お近くの浜屋へご来店下さい。

- |                                  |                                 |
|----------------------------------|---------------------------------|
| ■奈良王寺店 / 大和・王寺町 ☎(0745)31-2211代  | ■西宮店 / 171番・下大市 ☎(0798)51-2211代 |
| ■奈良生駒店 / 近鉄・生駒駅北 ☎(0743)83-2211代 | ■芦屋店 / JR・山側西 ☎(0797)35-1194代   |
| ■岸和田店 / 2国・西之内 ☎(072)445-2211代   | ■三田店 / 三田・対中町 ☎(079)559-2211代   |
| ■堺島店 / 第2・阪和沿 ☎(072)261-2211代    | ■神戸本店 / 元町・4丁目 ☎(078)371-2211代  |
| ■藤井寺店 / 近鉄・藤井寺 ☎(072)954-2211代   | ■新長田店 / JR・新長田 ☎(078)621-2211代  |
| ■駒川店 / 中野・交差点 ☎(06)6709-2211代    | ■明石店 / 森友・交差点 ☎(078)927-2211代   |
| ■中瀬大阪店 / 近鉄・西岩田 ☎(06)6783-2211代  | ■加古川店 / JR・駅南側 ☎(079)426-2211代  |
| ■履屋川本店 / 石津・交差点 ☎(072)829-2211代  | ■高砂店 / 明姫幹線・中島 ☎(079)443-2211代  |
| ■坂方美園店 / 長尾・東貝町 ☎(072)836-2211代  | ■姫路本店 / 駅前・御幸通 ☎(079)282-2211代  |
| ■高槻店 / 高槻・相屋町 ☎(072)683-2211代    | ■福崎店 / 福崎町・役場北 ☎(0790)22-2211代  |
| ■茨木店 / 茨木・大手町 ☎(072)622-2211代    | ■網干店 / 網干・浜国沿 ☎(079)272-2211代   |
| ■豊中店 / 豊中・郵便局横 ☎(06)6848-2211代   | ■龍野店 / 龍野・大橋東 ☎(0791)62-2235代   |
| ■川西店 / 川西・火打2 ☎(072)759-2201代    | ■赤穂店 / 赤穂・塩屋東 ☎(0791)45-2211代   |
| ■伊丹店 / 阪急・駅前西 ☎(072)775-2211代    | ■山崎店 / 穴栗・山崎町 ☎(0790)62-5171代   |
| ■尼崎店 / 阪神・駅南側 ☎(06)6413-2211代    | ■浜屋漆工芸姫路店・土山町 ☎(079)293-2211代   |

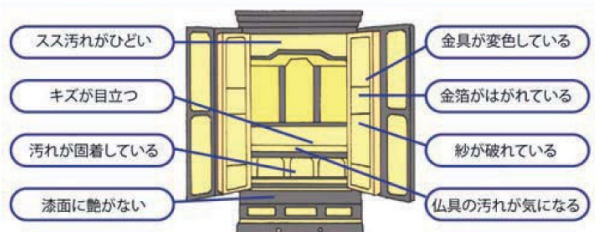
■本 社/姫路市南畝町2丁目31番地 TEL.079-288-2211(代)

お仏壇泡洗浄専門店

京都北白川 **一步堂** -IppoDou-



お仏壇を美しくするのは、ご先祖さま大切な亡き方への感謝の心です。  
お宅さまのお仏壇、汚れてないか今一度見直してみませんか？



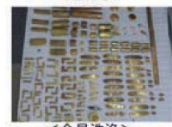
<泡洗浄>



<金箔泡洗浄>



<金箔補修>



<金具洗浄>



<扉修復>



<外扉磨き>

安価で仏壇仏具の修復のプロが昔の輝きに修復いたします

お仏壇の特許泡洗浄(株)メイクリンお仏壇本舗加盟店

京都北白川 **一步堂**  
☎フリーコール 0120-929-666

詳しくは… [ 京都 仏壇 一步堂 ] で検索!



財団法人 浄土宗報恩明照会

# 心といのちの電話相談室

## ☎ 03-3436-6823

あなたを支えたいと願う人がいます。つらいお気持ち、おはなしてください。

『心といのちの電話相談室』の特徴

- 研修を受けたお坊さん、お寺の奥さんがお話を伺います
- 多彩なご相談に対応します
- 周囲の方もご相談ください

『心といのちの電話相談室』の約束

- 秘密は必ず守ります
- 勧誘はしません
- 無料でお受けします



『心といのちの電話相談室』事務局  
〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 財団法人浄土宗報恩明照会内  
TEL.03-3436-3353 FAX.03-5472-4878 ホームページ.http://homei.jodo.or.jp

詳しくは  
心といのちの電話相談室 **検索**

フリースタイルな僧侶たちのフリーマガジン

平成24年 6月1日発行 第17号  
発行元 フリースタイルな僧侶たち 編集部  
〒600-8119  
河原町通五条下ル本塩竈町 583-5  
kawaramachi place 1002 号室  
tel : 075-555-5730  
fax : 075-777-9579  
e-mail : info@freemonk.net  
http : //freemonk.net

※ 本誌のコンテンツを無断で転載することを固く禁じます。

題字 しらたきなべお  
写真 掛川雅也  
DTP&デザイン bdt 山本成美  
輪番編集長 中平了悟  
総指揮 池口龍法